

ありまふじ里山だより

Vol.37

『ありまふじ里山だより』では、棚田里山エリアの自然の様子や里山保全に向けた取り組みについてご紹介します。Vol.37は里守の会の活動の様子や棚田の稲刈りの様子についてお届けします。

里守の会、活動日！

棚田里山エリアでは、森の若返りを目的とした壮大な実験中。高木化した木を伐採し、その切り株から生えてくる萌芽を育てて、若々しい森に再生します。

ここは2019年度に伐採した区画。この日は専門家の指導のもと、1本ずつ萌芽の有無や成長の具合を調査しました。さらに1箇所からたくさん生えてしまった萌芽は数本を残して、余分な萌芽を切り落とす芽かき作業もおこないました。これにより残った萌芽が強く育ってくれるのです。

調査をしていると、足元の草かげからコジユケイが2度、3度と逃げるように飛んでいき、結局8羽も隠れていました。

10月とは思えない暑い日が続いていますが、足元にはドングリ、目の前には春に咲くはずのモチツツジが狂い咲き。なんだか季節がわからなくなっていました。

古代米の稲刈り

棚田では、夢プログラム「自然の学校」による稲刈り。朝から親子連れが鎌を片手に稲刈り。それをベテランメンバーが慣れた様子で束ねてはざ掛け。天日干しにより、茎の養分がお米に移って、さらに美味しくなるのだとか。

